

生徒の感想

自分は阪神淡路大震災のときはまだ生まれていなかったのですが、新聞記者として、震災を経験された三好さんに当時のお話を聞くことができよかったです。話の中で、柏木ビルが傾いている写真と倒れている写真があって、もう一枚の写真で、ビルが完全に倒れていてびっくりしました。窓ガラスが割れたり、大きな津波がきたりなどが南海トラフで再び起こると思うと、恐ろしいです。阪神淡路大震災や東日本大震災などの経験を活かして大勢が助かってほしいと思いました。

新聞記者として働いていく中で人の死に立ち会うことあがある。それに対して、自分ごと・身近なこととしてとらえることが必要だと言うお話が印象に残りました。新聞記者という仕事の印象として、単に現場を見て記事にするというものだと思いました。しかし、三好さんのお話では記者である感情を知ることができました。悲しく、辛い思いもするしそこから教訓にもなることが多くあるのだと知って以前よりさらに新聞記者という仕事が大変なものだと思いました。今回の授業で新聞のことだけでなく、兵庫県についてまだまだ知らないことがあったのだと思い、興味が湧いたので個人的にも調べていきます。

色々な災害のところで苦しい場面でも取材したりしていて、ほんとに大変なお仕事なんだと思いました。記事の題名など内容を相手に分かりやすくなおかつ、相手が飽きにくいように興味を持ってもらえるようにするのですら難しいのに10何年間してらっしゃるのですごいと思いました。また、新聞関係の仕事に就くにはいろいろなニュースのことや、その地域の場所などを把握しながら行動しないといけないのを知り、とても大変なお仕事なんだなと思いました。ご忙しい中2回も講義してくださりありがとうございます。

新聞記者という職業についてあまり知らなかったのが今回色々教えて頂けて嬉しかったです。多くの芸能人や著名人の方と取材やエッセイの依頼で知り合っていて少し羨ましいなと思いました。三好さんが取り上げてくださった様々なニュースに関して、私はあまり知識がなくニュースに如何に関心を持っていないか改めて感じました。新聞は一人暮らしではなかなか読む機会がないですが、今回で新聞の魅力や読み方がよくわかったので、図書館などで読んでみたいです。

文才に長けている三好さんの授業は書くことを仕事にしているのに関わらず喋りが流暢でとても入ってきた私自身も喋るのは得意な方とは思っていましたが書くことをもっとすれば喋りももっと進化できるのではないかと思います。自分も大学に呼んでもらえるような職業に就きたいと思いました。一つのことを大きく書き広げる能力も私自身欲しいと思ひ掘り下げる事を日頃から意識して生きていきたいです。毎日同じ道を歩くというのも自分には無い観点で興味深いなと思いました。

1枚の新聞が出来上がるまでに様々な人達の努力があることを知り、新聞を作る大変さを学ぶことが出来ました。わかりやすい記事の書き方、新聞の特徴や読み方などを知り、新たな視点から新聞を読んでみようと思いました。また、新聞記者のやりがいとして記事を書くだけでなく、その記事がきっかけで社会が動いたり、地域の役に立ったり、取材したかった人との出会いも記者の醍醐味であることを聞いて、新聞記者は責任感とやりがいのある仕事であると感じました。

三好さんの講義を聞いて印象に残ったことは、阪神・淡路大震災のことについてです。理由は、長年記者をされている三好さんが1番辛い経験と仰っていたからです。実際に震災にあった当事者でもあり、それを報道しなければならないとなるとたくさんの辛い情報を耳にしたり、現場を目にしたりされたとても辛い思いをされたと思うからです。それでも、情報を待っている方のために必死に情報を収集し、伝えるというお仕事をされている三好さんはカッコいいと思いました。

私は、土曜日の講義に参加していないので、周りの皆より詳しくお話を聞いていませんが、やはり、現場で働いている方であるので、すごく細かいところまで教えてくださるなと感じました。私自身この業種に興味はありませんが、新聞のでき方や、できるまでの経緯など本当にさまざまなものを知ることができました。前まで興味はなかったものの、今は知りたいことが少し増えてきているので、それは家で調べてみようと思います。1番印象に残ったことは、やっぱり阪神淡路大震災のことで、当時のことや見たことのない写真などみせていただいたり、本当に勉強になりました。

新聞記者の仕事は壮絶だということを感じた。朝刊と夕刊があり半日くらいで取材してきた内容を文章にまとめ、校閲し、デザインし、印刷するという流れを毎日毎日やりこなすのは相当大変な事だと思った。自分の手元に届いてくる新聞がこんなにも新聞社の方々の努力でできたものだと思ったことはなかったの

で改めて信頼出来る記事を届けてくださることに感謝だと思った。
また新聞記者の取材の仕方を生で聞くことが出来たのもすごく面白かった。質問を全部考えてからではなく、ある程度考え話していくうちにどんどん色々な質問を出していけるのは才能だと思った。三好さんのお話は新聞記者の話だけでなく、新聞の読み方の話や書き方の話、時事問題など様々で聞き飽きずすごく知識が増える素敵な時間になった。この間作った新聞も今の知識を踏まえてもう一度書いてみたいと思った。

今回の講義を設けていただきありがとうございました。新聞記者にはさまざまな大変なことがたくさんあるということが分かりました。私は新聞を全く読んでいないので新聞の秘密や良さなど触れることがなかったと思っていましたがこういう機会のおかげで少しだけですが、新聞の良さなどに気づくことができました。自分的に新聞の1番の良さだと思うのは新聞記者が書きたいと思っていることを読者に共有できることだと思いました。これは一つに過ぎませんがたくさん良さがあることを知れて良かったと思いました。

話を聞く前までは、記者という仕事がどのような仕事か全く分からない状態でした。ですが、三好さんの話を聞いて新聞を作る作業、話を聞く作業、遠くに行くなどとさまざまなことをやる仕事だというイメージを持ちました。私自信あまり新聞を読まないですが、話を聞いて意外と新聞を作ることは楽しいことなんだなと思いました。話を聞くのが辛い時でも、聞かないと聞かないことがある時があるとおっしゃっていましたがそのような場合でも変わらず接している記者さんたちを尊敬します。

今回の新聞記者さんの話を聞いて、神戸の新聞社は火事や地震、米騒動の巻き添いなど食らってとても大変だったんだと思いました。また、たくさん場所取材しに行ったり、地震や震災などで、痛い思い、悲しい思いをした人、スポーツで優勝やなにか喜ばしいことが起きた人の笑顔や、嬉しさなどたくさん人の表情を見てきたんだなと思いました。自分は新聞を全然見ないし、そこまで興味がないのですが、これを機に少しでも見る機会を作ってみようかなと思いました。

新聞記者は自分にとって楽しいと感じることはもちろん、人の死に関わる悲しいと感じることも取材しないといけないと知って、大変な職業だなと思いました。新婚旅行の予定があっても、とくだねがあると仕事を優先したと言っていて、仕事に対する熱意が素晴らしいなと感じました。普段はあんまり新聞を読まないのですが、この講義を機に様々の会社の新聞の読み比べをして見たいです。新聞一枚を作るのに、沢山のひとと時間が必要だなと改めて感じました。

人との関わりが好きな人や有名人に会いたい人などは、新聞記者に向いているんだなと思いました。新聞の見出しは分かりやすく、私では付けることは難しいなと思いました。新聞記者には、文章を要約する力も必要なんだと思いました。新聞を取ってはいないため、紙で読む機会は今後、少なくなると思いますが、インターネットやアプリを使って新聞を読んでいきたいと思いました。私が興味のない記事でも読んで視野を広げていきたいと思いました。ありがとうございました。

いつもの新聞を読むの授業とは違って、ほぼみんなに答える、全員参加を強調した授業形式だと感じた。最近の事象等の内容を問われるものだったため、ニュースに関心のなかった私にとって分からないことだらけだった。これから習慣的にニュースを読んでこのくらいのことは答えられるようになりたいと思った。授業の内容は主に三好さんの過去の経験や神戸新聞について細かく説明して下さった。神戸は過去に阪神・淡路大震災も経験していることから、実体験を話していてとても苦労した新聞社だという印象も受けた。また、地方紙と全国紙の役割の違いも説明して頂き、地方紙の方が限定して深く知ることができることを知った。

全体的に印象に残る話は多かったです。個人的に阪神・淡路大震災の被災時の話が心に残りました。実際に震災にあった人から話を聞くのは数回目ですが、当時倒壊寸前の建物にいた人の話を聞くのは初めてで、被災者だからこそ語れる実経験の話を、危機感迫るような文面にした上で新聞に載せられることも、新聞記者の人のすごい部分だとも思いました。自分であれば、あんな経験をしたら精神的にも落ち着く訳ありませんし、新聞記者だったとしても、書ける自信がありません。新聞記者の方が直接語ってくださる機会は今後二度とないと思います。貴重な機会を設けてくださり本当にありがとうございました。

私は以前から新聞、テレビなどのマスコミ関係の仕事に興味を持っていたため、今回の講義はとても参考になりました。

新聞社、新聞記者の活動から、私達大学生にとっても役立つような記事の書き方やインタビューの取り方のコツ、新聞記者に必要な能力や心構え、昨今の情勢の事や阪神・淡路大震災の事など、新聞に留まらず幅広い分野の話をしてくださりどれもためになりました。

私としては三好さんのお祖父様が旧日本海軍の重巡洋艦「高雄」に乗艦されたと聞き驚きました。その後伺った太平洋戦争の事や戦死されたお祖父様の奥様と三好さんのお話は非常に興味深かったです。

先の見えない、情報が生命線となるこの世の中ですが、今回の講義で聞いた貴重お話を聞いたことは私にとってとてもよい経験となりました。

いろんな経験をされてきていて凄いなと思いました。私は記事にするまでの過程が印象に残りました。こんなに多くの記者がいて、こんなに多くの人が関わっていると知って驚きました。普段あまり新聞は読まないのですが、これを機に読もうかなと思いました。

震災などお辛い経験も沢山されていて、新聞記者という仕事は大変なのだなと知れました。記者と聞くと、取材するだけだと思っていたのですが、私が想像する以上に大変だと知れました。

今回は非常に貴重なお話をお聞かせ頂き、ありがとうございました。

私が特に印象に残ったのは阪神・淡路大震災の現地での様子を仰っていたことです。私は父の話しか聞いたことがなかったので、あのよう新聞社目線でのお話を聞いて、防災意識が高まったし、自分の身に起こった時を考えて行動しようと思いました。また、新聞ができるまでの動画を拝見して、あの作業を毎日繰り返して同じ時間に配達できるようにしていて凄いなと感心しました。新聞を読むの授業で新聞について詳しく知れ、最後には実際に新聞社で働いている方のお話を聞いて良かったです。

今回は非常に貴重なお話を聞けることができました。特に会ったことのある有名人の話や阪神淡路大震災のお話など僕らが普通に生活しているだけで聞けないようなお話が聞けてとても良かったです。阪神淡路大震災のお話は僕らはまだ生まれてなかったので初めて聞いてびっくりするこどだらけで心が痛くなりました。この気持ちを忘れず、三好さんが言ったように次世代に話を語り継いでいきたいと思います。新聞を読んでいるだけで色々な工夫があることには気付かなかったので今回お話を聞いて良かったと思います。